

外務省
文書

大臣
参議

外務省上申米國駐劄公使ヨリノ報告
書を添

書記官

明治十一年五月三十一日

外七拾八号

本局

大正十一年四月
限印寄贈

114
A 729



乙卯九月十三日

米國駐劄公使ヨリノ報告書壹冊
為法一覽進達仕也

十一年五月廿九日 外務卿寺島宗則

大政大臣三條實美殿



七二

卜務省

カ一 ○善盛領府に立学校ノ事況

善盛領府内におく立学校ハ他ノ大郡府
ノモノニ比スレハ其規模結構云々壯ナラスト名モ近
年学校路委多持学校官負ノ獎励ニ依リ進歩ノ
事況頗ル觀ル可キモノアリ因テ家宗平学校路委
負ノ事報及ヒ實之ノ二三ヲ尤ニ登錄レ以テ参考
ニ供ス

衛生局官負公立学校視察ノ事 衛生局長官負之報

此中牛健全家ノ子視ニ依ルニ学校各生徒ニ供用ス
ル空糸ノ餘地ハ其方二方六尺乃至三方五尺ト
スルヲ至要トス

右ノ割合ハ每人一三二平ト毎ニ三方十尺五分ノ空糸

ラシテ呼吸スルニ不適当ノモノタラシム而シテ室内空
氣ノ全部ハ二十五分時ノ内ニ全ク更新スヘキトノ推定
ニ基クモノナリ今東京府内ニ在ル諸学校ヲ控
スルニ右ノ定度ニ別ツザルモノ法アリ後年之ヲ改
良セサル可カラス

校内ニ於テ童男童女ヲ同居セシムル事学務局委員ノ意

府外ノ学校及黑人ノ学校ハ男世一室ニ雜居セシム
ト名モ府内白人ノ学校ニ於テ之ニ及シ男世共居ヲ
異ニセリ或土地ニ於テハ全ク学校ヲ別棟ニスルモノアリ
ト名モ大徳ハ口校内ニ於テ単ニ同居室ノミヲ一區
お作り右ハ校内学務局ノ方針ニ依リ部ノ如ク區
別スルモノナリ
是レハ理想ニ依リ之ヲ考慮スルニ府内ノ学校ニ

於テモ均シク男女同居セシムルヲ良トス何ントナレハ童男ハ行儀自
カラ謹直ニそし童女ハ長婦人タルノ如儀ヲ失フテ嘗テナシ
又街上ニ於テ其容貌ノ清潔ナルハ市人ノ目撃シテ学
務委員ニ函告スル所ナリ抑亦方法ノ欠シク仍コレ
タル諸所及西北ノ諸所ニアルヲ主学校ハ大徳男女
ヲ雜居セシム而シテ男女別ニスル学校アルハ蓋シ特
におナルノミルソ男女ノ同居スル学校ハ童男ノミノ学校
ナリ其支配大ニ容易ナルハ人ノ能クおル所ナリ而シテ
婦人ヲ以テセシムトおス学校ニ於テモ特ニ然ルヲ見
ル丈レ童男童女ノ家ニ生長シ更ニ學業ヲ生セスお
互ニ会合レお伴ヒテ学校ヲ往還シ誰アリテ之ヲ咎ム
ルモノナキニ其学校ニ入ルヤ否ヤ忽チ途ヲ區別スルカ
如キハ有後者ノ更ニ別セサル所ニシテ之ヲ区別スルカ

ト
各
分

ト云可カラス凡童男童女也其授所ニ於テ良ク好之カ
監察ヲおシシク令合スルハ又ニ妨ケナキナリ

知事計簿会ノ事 学務局長報告

善府ヨリ立学校ニ於テ自カラ割立スル諸件ノ内
幼年計簿会ヲ以テ其トスジヤフェルソシテ簿会ヲ以テ
最古トスフランクリン、グレアム校ノ計簿会ヲ以テ最
トス而シテ他校ノ生徒モ亦漸ク意ヲ之ニ注ケリ所不
ノ簿会ノ如キハ其自好ニ出ワルト且ツ不羈招立シテ自
備スルヲ以テ其考査ナルヲ告ル可シ故ニ是レノ事ニ片
カスルハ實ニ獎勵ニマキナリ因テ此簿会ヨリ亦亦ノ規
則ヲ以テ立立学校ニ於テ集會セシテ簿フモノハ毎
学務局長ニ於テ之ヲ許イヤリ而シテジヤフェルソシ
簿会ノ如キハ連年其集會ノ決裁且シキヲ得ルト

且其後例ヲ著ストヲ以テ賞賛スルニ足レリ

学校及幼稚園ノ建築法 同上

門窓所ハ成バリ学校ノ外ニ設クルニ如カズ又是ニ備置
キタル窓条ハ通箇ハ之ヲナラズ故ニ窓牖ノ外更ニ
之ハ窓条ヲ通箇セシムル可キ備ヲおサル可カラズ又講
堂及操場ハ火災ヲ免ルル可キ故ニ建築ス可シニ層
以上ヲ有スル窓屋ニ殊ニ然ルヲ以テ費用ノ如何ヲ向
社法ヲ有ラサル可カラズ又窓条ノ外套ヲ掛ケ及ヒ昔
籍、紙、石膏、果汁、草等他学校ニ属スル品物ヲ
蓋スル可キ小房ヲ各授業場中便利ノ場所ニ後ク
可シ又生徒ノ外套ハ務メテ日光ヲ通シ且空氣
ヲシテ能ク流通セシムル可キ故場ノ形ハ長方ニシテ
其大サハ各生徒ハ凡ツ方ニ平尺ノ場所ト立方或る

ト
各
小
房

幸三尺より三尺天ノ窓条ヲ多用セシムテ日光ハ
全ク一方より入ラシム可シ而シテ場ノ幅ハ窓牖より暑
モ距リタル所へ迄分ノ日光ヲ興フル程ニカス可シ又
あぶナル大サノ窓ニ四ラ場ノ一方ニ設ケ成イテ天
井ニ近ケ窓檻ハ牀上ルン四フヒートノ高サニス可シ
又帷帳ヲ窓内ニ設ケ運轉棒ニ因テ真直ニ下ラ
シム可シ又場ノ四隅ヲ円形ニス可シ而シテ場ノ壁面ニハ
ア半黒板ヲ掛ク可キ場所ヲ設ク可シ黒板ノ幅
ハ四フヒートニシテ其白聖板ハ牀上より四フヒート九イン
チノ所ニ置ク可シ此場所ニ用ユ可キ材料ノ撰擇ニ
暑モ湿モ忌ミ之ニ御用スル石炭ハ元分ニ軟カニスヘシ
此一事ノ如キハ教員ノ人ノ注意セサル所ナリ又生徒
ノ数ハ窓牖ノ多寡ニ依テ出入カラス殊ニ上級

ノ生徒ニ至テハ此教壇ヲ出ツテカラス此教壇ハ長サ三
五尺幅二尺六寸天井ノ高サ十四尺ノ教壇ヲ要ス生徒
ノ机ノ位置ハ窓牖ヲ具充ニシ教壇ノ端ニアル窓
ノ机ヲ具充面ニ見ル可シ而シテ生徒休息時
ニ教師ヲシテ之分ニ暑場ノ空氣ヲ交換セシムル為
ニハ窓ノ机ノ机ニ對スル方面ニ一箇ノ窓ヲ穿ツ可シ
而シテ窓ノ机ノ机中此窓より入り来ル日光ハ窓内
ノ帷帳ヲ以テ之ヲ防ク可シ然テ教壇中ニハ電氣
ヲ以テ仕掛ケタル時辰鏢及時報ヲ備フ可シ以上
述フル所ノモノハ目撃及書中ニ出ツルモノニシテ僅
ニ此一條ノ一部分ヲ陳述スルノニ畢竟此主意ハ唯
之ヲ元分ニ査究セテ勸奨スルニアルノミ

教授書籍ノ事 曰上

ト 務 省

學校教授者ノ價值其度ニ過キ及ヒ形号ノ書ヲ依リ
刊行シテ賣却スルヲ生ツル利益甚タ大ナリ故ニ之ヲ
業トスル者其富ヲ致ス所ノ利金ハ人民ノ困ニテ拂フ
所ノモノナリトノ福全國ニ給ヒタリ因テ其弊害ヲ除ク
テキ種々ノ方法ヲ設ケ既ニ試ニタルモノアリ某ノ州ニ於
テハ州政府ニ於テ其書ヲ依リ且ツ之ヲ刊行シ其實費
ノ價ノミヲ以テ之ヲ生徒ニ賣却セリ又某ノ都府ニ於
テハ卸賣ノ價ニテ之ヲ買取ルシ而シテ原價ヲ以テ之ヲ
生徒ニ賣却セリ又々某ノ場所ニテハ之ヲ生徒ニ貸
與シ其借料トシテ毎年若干ノ金高ヲ納メシム又
某都府ニ於テハ之ヲ生徒ニ賣却セシム者ラ
シテ便利ノ地ヲ撰ミ支店ヲ設カシム又之ヲ生徒ニ
給與シテ又ニ其代價ヲ求メサルモノ或ハアリ而モ後

ノ法方ノ如キハ本府學校會計ノ系況ヲ察スル由ハ之ヲ
実施シ難シ又上述他ノ方法ノ如キモ其成途ニ難キ之ヲ
考按スルニ良法トシテ勸告シ難シ而モ年々諸學校ノ
高法与ヲ強テ本府ノ諸書館ニ命シテ立學校ノ
用ニ供スル教授本ノ價格ヲ減定シ其價目ヲ依リ之
ヲ余ニ出サシムヲ以テセリ其律等ニ於テモ各連ガニ之ヲ
承認シタリ今其價目表申ニ掲クル所ノ價ヲ又ルニ
之若年ノ價ヨリ減スル一平均ニ割ナリ

○コロンビヤ部無事領府内外ノ人口

白哲人

黑種人

十萬六千人

四萬九千人

合計格五萬八千人

○學齡及學籍ニ入ル人数

白哲人 六人 年ヨリ十九歳正

黑種人 同上

学齡人負 男五名 女三名

男四名 女三名

合計 武百五十七人

七名 四十九人

学著ニ入ル者 武百四十六人

七名 武百三十八人

但シ百人 年十人 武分

日六人 武分

外ニ私立学校ニ入ル者

七名 武百九十九人

右合計 武百八十九人

武百八十九人

○ 教員ノ数

諸学校ニ於テ 諸級ノ生徒ヲ 振出スルニ 必要ナル者 武百三十三名

曰 副教員

六名

曰 副教員補

二名

上ホグラマニ 女学校ニ 教員

二名

師範学校ニ 教員

一名

音楽教員

六名

图画教員

二名

合計 武百七十九名

内 男十三名 女 武百六十六名

公立学校ニ於テ 教員ヲ 受ケタル者 百七十七名

師範学校ニ於テ 卒業シタル者 七十八名

本年 亦 教員タルノ 経験ナキ者 武百三十三名

教員タルノ 年数 平均 六年 半 也 ナリ

○ 官立学校及生徒 昇進ノ事

学務委員、並 特長及 並 特長ノ 諸学校ヲ 巡 察 スルノ

数々万々なる五千九百ナリ罪責ノ件数或る六千四
 百件ノ起レル学校ノ数七千ノ内ニ中六千九百ナ
 男見ノ学校ニ校ハ女子ノ学校ナリ授業中出校
 スルモノ及時刻ヲ失セス出校スルモノ毎月平均六
 百五名ナリ今年中出校スルモノ及時刻ヲ失セ
 ス出校スルモノ多シる四百四名ナリ遅刻スルモノ全半
 中百名ニ件概或名ノ割ナリ

○学校所有物ノ價值

白哲人学校

黒種人学校

地所約六万五千七百七坪

五万三千四百四坪

建物六千四百五十五坪

或千九百三十三坪

什器雜具六万四千四百五十五坪

或万三千九百坪

合計八千四百六十六坪

合計或千六百三十三坪

○校内ニ於テ保任スベキ財産並ニ公学校定費
 府内財産ノ價值

米金八千七百或千七百七十九坪

公立学校費修金

三千三百五十五坪

家具及器械料

約五万六千五百坪

教官給料

六万六千五百五十五坪

官費材料学校借料ホノ雜費

約万七千或千七百三十三坪

黒人学校セハ所ノ費用

合計三十三万三千七百七十九坪

○生徒社費ニ属スベキ雜費及支出

凡ソ公立学校ニ入ルモノハ教授料及校中器具ノ費用
 ヲ要セストモモ其ノ所用ノ書籍ハ自費ニテ之ヲ購求

セサル可カラズ公立学塾ハ總テ八年トス其向所因ノ書
 藉代價ハ平均一ヶ年ニテ弗ラ五錢トス其他習字
 用紙墨画用器ノ費用ハ平均一ヶ年ニテ五錢ト
 算スベシ右ノ書目左ノ如シ

- 廿一年 初学読本 廿二読本
- 廿二年 初学読本 初学算字本 初学算術本 初学音楽本
- 廿三年 初学読本 習字全書 算用算術本
- 廿四年 暗算 地学初歩
- 廿五年 中進生読本 暗算文典 中進生音楽本
- 廿六年 初学読本 算術算術全書 算術全書 地学全書
- 廿七年 初学読本 算術全書
- 廿八年 初学読本 算術全書 代数初歩

○生徒一人毎ニ費ノ割合
 諸君費ノ總計ヲ諸生共ノ人負ニ割合セ一人毎ヶ
 年ニ費ヤス所ノ計其各地異向アリ今亦國中ノ
 比較大男九ノ如シ

ホストン各	三拾六弗五錢
サンフランシスコ	三拾五弗八錢
伊豆府	三拾七弗三錢
ニウラリアンス	三拾七弗三錢
ロツツホルグ	三拾六弗
セントル井ス	三拾五弗三錢四錢
シンシナタ	三拾四弗三錢
インゲヤナポリス	三拾四弗四錢
ルイスウ井ル	三拾三弗七錢八錢

クレウツラント

或は或布五枚ハ義

クマガゴ

或九布七枚ハ義

デトロイト

或九布七枚

善美銀府ヨリ於内カ 或は或布九枚

第二〇米國大務卿公債證書ヲ發行ノ爲メ細音
府ニ至ル事

米國大務卿ニヤルモ氏四月ハ公務ノ爲メ細音
府ニ出張セリ海軍旅長ノ事務ニ未タ四ハ公ナラスト
由モ海軍細音府滞在中 軍事ノ途ニ就キ之ヲ
見ル片ハ曾テ國會ニ於テ議決セル米一千八百七十
九年一月七日ヲ以テ正金ト紙幣ヲ同價ニ至ラシメ
諸取引上差異ナカラシムベキトノ條例ヲ必行セシメ
シトノ事趣タル如クモ海軍若府ノ後テ速ニ國會
銀行及私立銀行ノ著名ナルモノ數名ヲ招キ
米一千八百七十九年一月迄ニ四米利付ノ公債
證書ヲ七千七百萬弗ヨリ一億五千萬弗ト右銀好ホ

臺灣知事セシトテ即メリ然レ銀水ノガハチ先就ツ
所至ハ同意セストモ四米洋利付ノ公債證書
五子万弗ノ由一千万弗ハ即時ニ其解ハ七十九年
一月下ニ其證書面ヲ和ニ付米金五子万弗半
價ヲ以テ買取セシトテ答議セリ因テ先就ツハ之ニ
同意シ臺灣知事スルヲ約セリ右先就卿ノ其力ニ
依リ忽テ米金ノ價五子万弗ニ付紙幣
五子万弗ニ付五子万弗ニ付紙幣ニ付五子万弗
十一年以來今ノ日以テ初リス此米金ノ價五子万弗
ノヲ推考スルニ七十九年一月下ニ金格ノ相場
五子万弗ニ付五子万弗ニ付五子万弗ニ付五子万弗
右ノ結果ニ依テ英國ニ付米金公債證書所有
ノ米金證書ニ信用ヲ付シ是より先キ低價銀

貨ヲ通用トナスノ條例決議ノ際ニ疑ヲ抱キ臺灣知
事ニ公債證書ヲ再ニ買取スルニ至レリト云フ
因ニ云フ本文公債證書臺灣知事セシテ米金ノ相
場ニ低セシトノ理由或ハ難解ノ憂アリ因テ
此ニ附言ス右公債證書ノ米金ニ對シ臺灣知事
ルナリ故ニ右先就卿ノ其力ニ依リ代價ハ
買取より米金ニ付收入シ積金ト爲シ一月
一ニ以後紙幣交換ヲ求ムルモノアルキノ備ニ供
スルナリ其際ニ其力ニ依リ政府ニ於テ決シテ其力ニ
トノ實況ヲ示スニ其力ニ依リナラシ

第三〇下院より先就卿ニ呼ビ知事府ニ於テ銀水ヲ
招集セシ實況ヲ尋問セシ事

何有府に於て大統の公債證書ヲ賣却せしハ既前
項に記スルカ如ク外國に於てモ一時公債證書ノ氣勢
ヲ維持スルニ至レリ然レハ亦日本國に院銀行及貨
幣事務局長等が於て大統の公債證書上ニ付一種
ノ控論アリ其要點ハ大統の公債證書ヲ公ニセシテ
僅カニ數名ノ銀行トモ議セシ一事ナリ大統の何有
府滞在中に院委員ヨリモ何有府に面信シ公
債證書ノ價位カテ探偵セシ大統の委員ノ後
ニ至リ或ハ銀行其他ノ人氏ナリ大統の僅カニ數
十名ノ銀行ノモ議セシヨリ其價位ノ如クモ之ヲ
公ニ諸銀行トモ議スルモノニ比シハ總計ノ上ニテ九七十
五万弗ノ低價ナリトモ之に院ニ報告セリ因テ下院ニ
於テ昨今大統の公債證書ノ高價議ニ關係セシ銀行ノボク

喚發シ電事ノ實際ヲ尋問スルトニ著クナセリ

按スルニ右委員ガハ曩ニ去年一月七日より金指
と交換ハ不可行トシ論ヲ多ク張セシヲ以テ今ヨリ
至ルニ尚暗に右交換ノ舉ヲ阻止セシメシトノ實
情ナキニ非ラス抑目今ノ大統のハ金指交換
ノ至唱家ニテ議及在院中及現職ニ轉任以
來專ラ意ヲ之ニ用ヒ電事上其宣シキヲ得ルハ
蓋シ世人ノ皆能ク知ル所ナリ夫ノ七年案方ノ位
價ナリト云々ノ如クハ畢竟其意ノ見ヲ免セ
サル者ト謂可也

第四〇朝鮮國ト条約ヲ結フ者ニ使名ヲ派申ス

ル事

ト 務 省

四月十日の上議文サーセント氏の上議院に於て朝鮮國と
条約ヲ結フノ議ヲ發議セリ。其論云ハ朝鮮國は昔大ナ
リト雖モ其大ナキハ初メニ米國ニ於テ一子ハる五十四年間
ニ從テ世人強陋不移ノ風俗ト視做セシ日本ヲ自國
ニ比シ西州各天國ノ爲メニ之ヲ開キ今ヨリ至リ大平
洋中一夫ノ開化國ヲ見んニ至レリ其近隣ニ在リ
日本ト近年ノ既ニ条約ヲ結ビ朝鮮ノ如キニ之ト和親
ノ条約ヲ結ビ通商ノ途ヲ開クハ或ハ全高國高法
上條事案發部分ノ裨益ヲ共ニ佛教ヲ其智教政
ムルニ至ル可シ又之ヲ開クニ當リテハ日本政府ニ於テ近
時編製セシ地圖測量法ガアリ於ル其便ニ供スルニ
テリ抑魯西亜ノ西西亞諸州ニ窺視セシ世人ノ著ク
知ル所ニシテ尤モ恐ル可キモノナリ今地徑ニ視キ之ヲ

是ルハ朝鮮國ハ實ニ土懷ヲ交接セリ故ニ全高
國ニ於テ早ク之トニ交際シ通商ノ路ヲ貯ヘシメ
其國力ヲ張クシルハ自カラ日本國ノ國勢ヲモ
堅固強動ナラシムル可シ何ントナレハ日本國東
海ニ孤立スルヲ以テ若シ魯國朝鮮ヲ占有スルハ
其志モ寧ニ心スヘキノ地ニ在レバナリ然レテ米國ノ勢威モ
モホク東洋各國ニ光被スルニ至ラシ若ク一事ハ其意
魯國ニ於テ東南ニ進ムルノ急ヲ免ツヒアラサレ
バ最モ必要ノ一トス云々。其論ハ各議文ノ相同ク以
テ其國事務委員ニ下付シ調査スルヲ議決セ
リ

ト
各
頁

第五〇米政府ヲ於テ是其哥國大統領テイヤス氏ヲ
公認セシム事

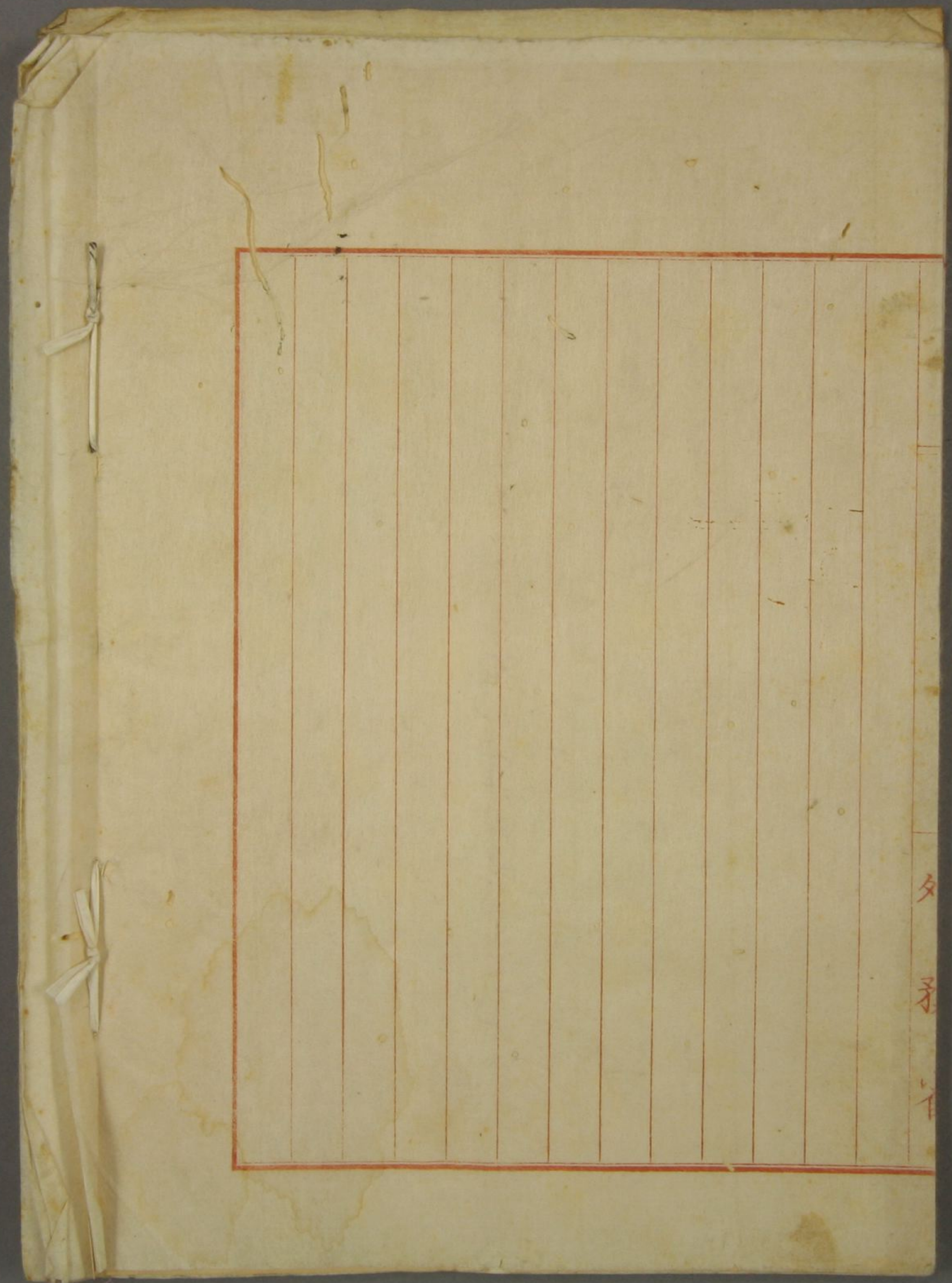
一千八百七十六年其哥國大統領ヲ撰舉セリ
後政府ハセズナヤレルドー氏ノ生正ニ大統領ヲ再撰セ
ラレシコトヲ公告セリ然ルニ大審院ノ判事長某ハ右
ノ撰舉ヲ不正非僞ニ出ツルモノトシテイヤス氏ヲ其任
ニ就カシメシコトヲ論決セリ其結局遂ニ兩黨ノ交戦
ト爲リテイヤズ氏勝利ヲ得一千八百七十七年又ニ國民
ノ撰舉ニ依リテイヤズ氏大統領ノ職ニ就キレルドー氏ハ
該國ヲ去リ米國初音府ニ寓居シ常ニ其國ノ動
靜ヲ觀候セリ

テイヤス氏ハ既ニ大統領ニ撰舉サルト雖モ米國政府

ニ於テハ是ノ如ク先キ墨國ノ米國テキザス州境ニ屬
シ侵略シ又レルドー氏ノ米國ニ立リテ再々謀ルガ
ノ事ニ狀アルヲ以テ墨國政府ノ結構未タ確實ナラ
ザルモノト視做シ近ヨリ至ルマテ右新撰大統領ヲ公
認セザリキ

此日在墨米公使公務ノ為メニ内府シ且再ニ赴任ス
ルニ方リ米國大統領ハ墨國政府果シテ確立スベ
キ現状アレハ之ヲ公認スヘキト命セリ蓋シテキザス
州境ノ紛擾も殆ンド平シ都ニ由シ墨國政府ノ
政令稍國內ニ普及スルノ事況アルニ因ルナリ
ダイヤス氏ハ墨國ニ生レ本年五月餘軍ナリテ種族
ハ微賤ニシテ系譜書ハ洋カナラズ考面シテ學科ヲ
備メ後テ法律學ヲ備メ先年海國內外ノ大戦

ニ屬シ戦切アリ一千八百七十六年中一旦捕虜ニ就
クト虫モ幸ヒニ之ヲ脱シ米國ニ於テ大ニ兵器ヲ購
取シ再ヒ墨國ニ入り遂ニ全勝ヲ得目今ノ地位
ニ據撰セラレタリ



夕
子
竹